

輝く

明日へ

● 施策の概要 ●

エネルギーと物流の拠点

相馬港湾整備

相馬港は、県内はもとより、宮城・山形両県南部を含めた広域経済圏の物流基地としての側面と、わが国初の電源地帯工業団地である相馬中核工業団地のエネルギー港としての側面を併せもつ重要港湾です。昭和六十三年に、関税法の「開港」指定を受けて国際港に昇格し、世界の港と直接結ばれるようになりました。

今後は、「出入国港」並びに「検疫港」などの指定、さらには関係出先機関の設置にむけ、港湾施設の整備を進めることになっています。

現在、一号、二号ふ頭を使って、原木、セメント、パルプ、砂利などの貨物が取り扱われています。また、五号ふ頭六万トン岸壁では、相馬共同火力新地発電所用の石炭が運ばれています。

今後は、取扱貨物量を増やしていくために県営の一号、二号上屋などの倉庫施設の整備拡充に加え、三号・四号ふ頭の早期完成が待たれています。

恵まれた、中核都市 “そうま”



東北の海の玄関口 国際港「相馬港」